

北名古屋市の国際交流・・・ ばづくり、ひとづくり、ちいきづくり。



外国人のための公共施設スタディ・ツアー 「北名古屋を觀よう、 知ろう、話そう」

北名古屋国際交流協会では、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく多文化共生社会づくりを市内在住の外国人とともに進めております。

協会が最も早くから着手しなければならなかった事業がありました。北名古屋市に在住している外国人も、市民と同様の恵まれた行政サービスを受けることができません。このことを理解し、心豊かな市民生活ができることを早くから知ってもらおうとする事業が手薄になっていました。アイデアから実施までという市民参加型での事業が今夏7月に初めて開催することができました。

外国人のための公共施設スタディ・ツアーとして、「北名古屋を觀よう、知ろう、話そう」と題して7月7日の七夕の日に開催で、会報や協会ホームページで参加者募集をしました。残念ながら、参加者は日本語受講生の小学生とその保護者、社会人受講者だけでした。特に図書館見学では市からの特別な配慮をいただきました。参加者全員に東図書館では「図書利用券」を発行してもらいました。図書館へ来たことがない彼ら。大喜びで、借りる本を探しに大わらわ。借りた本を片手に、次の見学会場へと向かいました。歴史資料館では電化製品



に関心が強かったようです。次に、ジャンボ・プールを車窓から、そして文化勤労会館を見学しました。ここで防災交通課の職員から、震災での避難の講義をわかりやすい言葉で説明を受けました。近くの学校が避難所であることを知って、安堵された方もありました。この場にて昼食を楽しみました。食べながら、全員の自己紹介。皆さん上手に日本語を話すことができました。受けられる行政サービスはまだまだあります。少しずつでも知ってもらうために、今後とも積極的に開催する計画です。市内に在住外国人は、1300人ほどと聞いています。行政のことに無関心な人がまだまだ多い。北名古屋市民として各種サービスが受けられるよう、協会ではさらなる努力をしていくつもりです。

演題 イラン空爆はあるか？

ペルシャ民族の誇りと核疑惑

協会では、国際理解を深めるため、7月28日(土)北名古屋市健康ドーム研修室で、中日懇話会事務局長小塚哲司氏をお迎えし、講演会を開催しました。以下は、その概要です。

アジアは日本が位置する「東アジア」と「中央アジア」「西アジア」に分かれ、東アジアには中国、韓国やインドなど、「中央アジア」にはカザフスタン、アフガニスタン、チベットなどが含まれます。そしてイラン辺りからヨルダン、イラク、内戦状態のシリア、イスラエル、トルコ、サウジアラビア、エジプトなど、いわゆる「中東」と呼ばれる地域が「西アジア」です。

私は1988年夏から三年間、エジプトに特派員として駐在し、西アジア各国への取材に出かけました。首都カイロの夏の温度は40℃前後と暑いですが、冬は暖房が必要なほど冷え込みます。こうした砂漠気候の民を救うために生まれたのがイスラム教です。中東ではユダヤ民族がユダヤ教を創生し、そこからキリスト教が派生し、二つをベースにイスラム教が生まれました。

西アジアで紛争が絶えないのは、多くの国家の民主主義が未成熟で、言わば独裁的な部族社会、国家間の争いが多いことと、加えてイスラム教徒とユダヤ教徒との宗教的対立があるからです。



イスラエルの首都エルサレムを訪れると、紀元前1000年前後に栄えた古代ユダヤ国家の神殿の西壁の一部が残っています。ユダヤ教徒はそれ(「嘆きの壁」)に向かって祈

りを捧げています。その近くにイエスが処刑された「ゴルゴダの丘」とされる場所に「聖墳墓教会」が建造され、世界のキリスト教徒の最大の巡礼地です。さらにイスラム教の開祖マホメットが、アラブの神の啓示を受けた場所に「黄金のモスク」が建てられ、イスラム教徒にとってはメッカに次ぐ聖地です。狭いエルサレムの中に、三大宗教の聖地があり、中世の「十字軍」の聖地争い同様、今なおいざこざが絶えないのです。

その中東の資源であるガソリン・石油に、日本はほとんど依存しており、遠くで宗教も関係ないと言っても、ひとたび紛争が起これば大きな影響を受けます。そこに中東、西アジア情勢を認識していく意味があるのです。本日のテーマも、イスラエルがもしイランを空爆したら、日本も大変な影響をこうむり、無関心ではいられないのです。

昨年の暮れ、イランに対するイスラエルの空爆論が高まりました。このためイランは石油を積んだタンカーの航路、ペルシャ湾ホルムズ海峡で、ミサイルを発射して軍事演習を始めました。不測の事態を想定し、アメリカは2隻の空母を出動させました。

なぜ、空爆の危険性が高まったのか。3年前にイランで2カ所目のウラン濃縮施設が見つかり、最近はかなり高度な濃縮をしていることが判明したからです。それまでもイランはウラン濃縮を非難され、IAEA(国際原子力機関)や国連の査察を受け、特にイスラエルとアメリカが神経を尖らせてきたのです。

なぜ濃縮がいけないのか。昨年3月の東日本大震災による福島第一原発事故を通じ、原子炉のウラン燃料が注目されましたが、ここに関連があるのです。

原子力発電所はウランの核分裂で生じる高熱により、水を高熱、高圧力の水蒸気に変え、タービンを回し、連結された発電機を回し、電気を作ります。

ところで自然界の天然ウランはU238とU235で構成されていますが、その割合はU238が99・3%で、核分裂を起こすU235は0・7%しかありません。

原子力発電に使うウランはU235の率が4・5%まで高まらないと、いくら中性子を与えても核分裂はしません。だから比重の差を利用して、U238を遠心分離機で飛ばし、U235の比率を0・7%から4・5%に上げていきます。こうしたU235の割合を増やしていく作業を「ウランの濃縮」と言うのです。

ところが、この濃縮をどんどん進め、U235が95%以上になったものが原爆で、起爆剤を当てると大爆発するのです。イランは「石油は輸出して外貨を稼ぐ資源。原子力発電は国民の電気供給のため」とし、その燃料を得るウラン濃縮は「平和利用」と主張し、今や20%くらいまで濃縮させていると言われます。イランは「医療用」と言っていますが、イスラエルや国際社会は「本音は原爆製造」とにらんで警戒し、そこへ進む前にストップをかけ、止めねば破壊する構えなのです。

NPT(核不拡散条約)という言葉聞いたことがあると思います。米・英・仏・ロ・中(国連常任理事国)が、核兵器を所有した後、「これ以上、核兵器を持つ国を増やさない」と決めた条約です。その後、パキスタン・インド・イスラエルが核兵器を持ち、北朝鮮も数個持っていると言われ、NPT体制は、事実上、破綻しています。しかも核兵器を持たない国からすると、5カ国だけ持っているのは不公平ではないか、という論理です。

ユダヤ教のイスラエルとイスラム教が大半の周辺のイスラム教国との対立が根深い中、唯一イスラエルだけが核を持ち、軍事的アンバランスを作り出しています。ユダヤ対イスラムの血生臭い争いは、戦後から60年以上も続いています。

西暦57年にユダヤ人がローマによって祖国を追われ、世界各国に散りますが、19世紀末からのユダヤ人排斥運動によって、祖国に帰る運動が起きます。だがかつての祖国には、アラブ人のパレスチナ人が住み着いており、当然紛争を引き起こしました。「イスラエル建国」を認めないアラブ諸国とイスラエルとの戦争が「中東戦争」で、「第三次中東戦争」(1967年)で、イスラエルはパレスチナ全土を占領し、現在に至っているのです。この結果の占領地奪回闘争とイスラエルの軍事的抑圧が、中東諸国にとって最大の問題があり、イスラエルのイラン空爆論もその延長線にあります。

つまり祖国を死守したいイスラエルはいざとなれば核で攻撃する。周辺のイスラム国は反撃出来る核を持ちたい。イスラエルによるイラン空爆はあるかどうかですが、1981年に建設中のイラクの原子力発電所を破壊し、2年前にはシリアの核設備を空爆した事実があります。ただ軍事大国イランの場合は、イスラエルに攻撃されれば必ず反撃し、中東は大変な戦闘状態に陥るため、米国が止めにかかると言う。

アジアフェスティバル

アジア近隣諸国との国際交流の場として、市民参加により、アジアフェスティバルを開催します。食と文化の交流を通じて、近くて遠いアジアの相互理解を深めます。

日 時 平成25年1月27日(日) 10時～15時まで

会 場 北名古屋市文化勤労会館

プログラム 「アジアフェスティバル」は、「市民参加」と「オープンな運営」を基本に進めます。

協会内に設置しております運営企画会議が、アイデア出しから企画、運営、実施まで市民参加が進めます。「アジアを識る。アジアを観る。アジアを食す。」を柱にして、具体的なプログラムづくりが始まっており、市民持ち寄り企画の手作りイベントで溢れます。

入場料 無料

「務安直伝！北名古屋キムチ」

コンテスト参加者募集

北名古屋地域おこし産品につなぐ、友好都市務安直伝のレシピをもとに、市民手づくりの「務安直伝！北名古屋キムチ」のコンテストを「アジアフェスティバル」のイベントとして実施します。

種 類 ①「白菜キムチ」部門

②「その他キムチ」部門

日 時 平成25年1月27日(日)

会 場 北名古屋市文化勤労会館

定 員 各部門とも5グループ程度(個人参加もできます)。先着順。定員になり次第締め切ります。

審査 市民参加による投票で決定します。

参加料 無料

応募締切 11月30日(金)

K-POPフェスティバル in 北名古屋

平成24年6月17日(日)、北名古屋市文化勤労会館大ホールで、「K-POPフェスティバル in 北名古屋」を開催しました。

このイベントは、2月に開催した「韓国フェスティバル」の成果を発展させ、北名古屋市の日韓文化交流の発信拠点づくりと、国際イベントによる北名古屋市の地域おこしに繋げていく、新しい国際交流の可能性を探る取り組みでした。

日韓交流ライブステージ、愛知県を活動拠点にする韓国人アーティストBOMIさんのコラボステージ、2012韓国麗水(よす)世界博PR、東日本震災激励イベントと盛り沢山の内容となりました。

日韓の若手アーティストやダンサーたちの未来志向のパフォーマンスが会場で披露され、大ホ



ルに溢れる700人を越える観客を魅了しました。当協会の初めての試みとして、大ホールを使用した有料イベントを主催者である(株)BOX[pan]と共催する手法を市民参加型で実施しました。また一つ、新しいステージに進むことが出来ました。

BOMIさんを中心に会場で東日本震災の被災者への義援金を呼びかけ、多くの皆様の善意が寄せられました。日本赤十字社愛知県支部を通じて、被災地に届けられました。

義援金 73,330円。

「ふれあいフェスタ2012」に 出展・参加します

平成24年11月23日(祝)、北名古屋市健康ドームで開催される「ふれあいフェスタ2012」に出展・参加します。

◇アリーナ「国際交流コーナー」では

①北名古屋国際交流協会の活動の歩みを写真・パネルで紹介します。

②フェアトレード商品の販売をします。

アジア・アフリカの開発途上国の人々の自立支援につながる活動です。

生産現場や生産者の生活の様子を写真・パネルで紹介いたします。

◇屋外テント「アジアフードコーナー」では

①好評の韓国料理専門店の自慢料理を味わえます。

②地域おこし産品「務安直伝！北名古屋キムチ」試食販売します。

③綿菓子、ポン菓子、ポップコーンも実演販売します。

皆様、ふるって、ご参加ください。

協会設立5周年記念
務安郡訪問記

九之坪 美越官男

7月9日、北名古屋国際交流協会水田会長以下、公募で参加した男性4人、女性7人、総勢11名の交流団が、韓国の全羅南道にある麗水(よす)空港に着いたのが午後4時過ぎで、麗水世界博を見学した。平日にもかかわらず大変な人出で、韓国館と日本館に的を絞った。他の館にも入ったが、この2館は、ともに優れた演出で、多くの観客を魅了していた。

7月10日、9時に務安郡庁を表敬訪問。韓国には「道」の中に「市」「郡」がある。務安郡は人口が七万五千人ほどで、面積は北名古屋市の20倍で、自然の中の懐かしい原風景がいたるところにあった。玉葱は韓国で20%、ニンニクは10%の生産で、土地はゲルマニウムを多く含むためか、赤みがかった土地でいかにも肥沃と感した。

郡庁前には『歓迎・北名古屋市民間交流訪問団・務安郡』の看板が掲げてあり、郡守はじめ幹部の皆さまが、郡守室で温かく迎えてくださった。サツマイモのジュースをいただきながら和やかに会見。郡守から花束の贈呈があり、記念撮影のあと、心から感謝しながら退室した。



次に国立木浦(もつぽ)大学校を訪問。博物館や構内を見学したが、さすが国立大学で構内は広くて緑が多い。博物館は閉館していたが、郡庁からの連絡で特別に見学することができた。ご案内くださった女性学芸員の額に汗が滲むほどの、熱の入った解説であった。続いて、務安郡



10万坪の池に、水面が見えないぐらい蓮が植わっていて、ちょうど蓮の華が咲きかけで、ところどころ白やピンクの華が咲いていた。満開期には池全体が蓮の華に覆い尽くされるそうで、それは見事で別世界の様だそうである。

次に「務安干潟」を見学した。前日ぐらいいから韓国も梅雨入りしたとかで、急に大雨が降ってきたが、郡からの連絡もあって、干潟博物館の館長さんが出迎えて下さった。雨が激しかったので、歩くことなく特別にバスが入口に横づけされた。館内で映像による干潟の説明のあと、展示物をみてまわった。そのうち雨が小降りになったので、三千年の歴史があるという、博物館前の干潟を見学した。見渡す限りの広大な干潟で、ラムサール条約に登録を準備中とのことであった。潮の満ち干きが、無数の海の生物を育て、地球環境をも浄化していることを身をもって感じた。

途中、日本人が社長という「塩」の会社を訪問させていただいた。翌朝のホテルでの地元新聞に、この社長が名誉郡民に選ばれている記事が載っていた。(水田会長がハンゲルで書かれた新聞を読まれて、メンバーに知らせて下さった)夕食は郡庁職員の方も交えて、有名な海鮮料理をいただいた。なかでも干潟で獲れた生きたテナガタコを、割箸に巻きつけて食べる初体験をした。吸盤が口の中に吸いついて、少し申し訳ない気もしたが、

の中でも民間交流に熱心な清溪面庁を訪問。面長さんが玄關でお待ちで、ご挨拶のあと庁舎の二階にご案内いただいた。日本語教室が開かれていて、教室の皆さんから予想外の大歓迎をうけ、手作りの饅頭やスイカ等をいただき、日本語での四季の歌での、真心のおもてなしに恐縮した。

その後、観光名所を二か所訪問した。まず「回山白蓮池」を訪れた。広大な

塩味が効いて美味しくいただいた。農作業で疲れて倒れそうな牛に、このタコを生で食べさせたところ、ムクムクと元気が出たとの言い伝えを、身をもって体験できた。この会食に参加された朴炳錫課長と、公募で参加された熊澤課長(北名古屋)とは、友好都市締結や、今も続いている中学生相互交流など、市郡の窓口として交渉にあたられた間柄で、二人の友情は見えていて麗しいものであった。

民間交流や文化交流は、政治的色彩が薄いため、人と人の絆で相互理解を深めやすい。このような草の根の交流が、国レベルでの関係が悪化した際には、相互の国の接着剤の役割を担うように感じた。

交流団ということで、郡からの至れり尽くせりのご配慮をいただき、感謝している。今後とも訪問交流は続くので、機会があればぜひとも市民の皆さまに、参加されることをお勧めしたい。

運営企画会議メンバー募集

協会は「韓国フェスティバル」の実績と経験を活かして、アイデア出しから、企画、運営実施まで、市民参加で進めています。

その推進のエンジンとして、運営企画会議を立ち上げました。運営企画会議作業部会として、「市民参加委員会」、「ボランティア委員会」、「地域おこし委員会」を設置しております。

皆さん、ぜひ参加してください。

○募集期間 平成24年12月31日(月)まで

○募集人員 若干名

各種申し込み、お問い合わせ等は、左記までお願いいたします。

〒481 8531 北名古屋西之保清水田15番地

北名古屋事務所(西庁舎4階)

北名古屋国際交流協会

電話 0568-22-1111 内線2400

FAX 0568-(25)-11800

Eメール info@kitanagoya-kia.jp

ホームページ http://www.kitanagoya-kia.jp